Genesis Japan

一般財団法人　ジェネシスジャパン　2023 年 8 月 27 日
ニュースレター　第 58 号
〒 311-3116 茨城県東茨城郡茨城町長岡 3652-306-3
電話 029-292-9621　ファックス 03-6862-8340
メール info@genesisjapan.com ホームページ genesisjapan.com

天を造り出し、
これを引き延べ、
地とその産物を押し広め、
その上の民に息を与え、
この上を歩む者に
霊を授けた創造主は
こう仰せられる。
わたし、主は、
義をもってあなたを召し、
あなたの手を握り、
あなたを見守り、
あなたを民の契約とし、
国々の光とする。
イザヤ四十二章5・6節

ですから、あなたがたは、すべての悪意、すべてのごまかし…を捨てて、生まれたばかりの乳飲み子のように、純粋な、みことばの乳を慕い求めなさい。
ペテロの手紙第一　二章一、二節

全アジア創造カンファレンス台湾大会海外講師陣ほか

ノアの箱船 (2)

ジェネシスジャパン会長　宇佐神 実

世の教えの猛威

創世記 1 章から 11 章までの記録は、世の教育しか知らない人にとって信じられないような出来事が書かれています。天地創造、堕落、地球全体を覆ったノアの洪水、バベルの塔の事件で 1 つだった言語がたくさんの言語に分かれたことなどです。これらのことは今日誰も経験することが出来ないため、また進化論教育によって刷り込まれた世界観に反するために、絵空事のようで到底受け入れることができないと感じるのです。

進化論は、創造主はいないという前提で推測された歴史観ですから、創造主の存在を教える聖書と相入れないのは当然のことです。しかしそうした進化論の前提を知らないと、聖書を信じつつも「進化論も信じる解釈はないだろうか」と模索してしまう方がいるのは仕方ないことかもしれません。

いつの時代でも、その時々の世の教えと聖書の教えを両方信じようとする動きがありました。パウロの時代は、当時広く信じられていた霊知説を聖書に取り入れようとする人々がいました。それに対してパウロはこう述べています。

テモテよ。ゆだねられたものを守りなさい。そして、俗悪なむだ

全アジア創造カンファレンス台湾大会 AACC2023 報告

去る 7 月 27 ～ 29 日に、国立台湾大学にて全アジア創造カンファレンス（以下 AACC）が開催されました。

AACC はアジア各国で聖書的創造を伝える国際会議をもつことで、開催国における聖書的創造の理解が深まり、福音宣教の確固たる土台として根付くことを目的としています。当初 2020 年開催を目指していましたが、コロナ禍で延期となりやっと開催に漕ぎ着けました。この期間に創造団体「クリエーション台湾」が創設され創造を伝える働きが始まりました。

日本からは総勢 15 名が参加しました。私は「聖書的創造とは何か」と「種類に従って」の講演をしました。英語での講演のため不安はありましたが、みなさまの祈りに支えられ、良い通訳が与えられ、参加者に十分伝わったようでした。次回は数年後にシンガポールでの開催予定です。アジアにおいて聖書的創造の働きが前進するよう引き続きお祈りください。またよろしければ一緒にシンガポールへ行きましょう。

話、また、まちがって「霊知」と呼ばれる反対論を避けなさい。これを公然と主張したある人たちは、信仰からはずれてしまいました。１テモテ 6:20-21

３世紀になると、教父オリゲネスは、当時隆盛を誇った新プラトン主義を聖書に取り入れました。新プラトン主義の一者と聖書の唯一の創造主を同一とし、新プラトン主義に合わない聖書箇所を天地創造から始めて次々と象徴的に解釈するようになり、さらに聖書全体を可能な限り象徴的に解釈するようになっていきました。

もしパウロが今手紙を書いたなら、「進化論と呼ばれる反対論を避けなさい」と書くのではないでしょうか。

聖書を信じていたのに進化論を公然と主張するようになった人々の中には、信仰からはずれてしまった人が多くいます。その一人が大伝道者と呼ばれたチャールズ・テンプルトンです。

また米国の神学校、ホィートン・カレッジの旧約学教授ジョン・ウォルトン博士は、進化論を信じたために文字通りの天地創造を信じられなくなりました。彼は失われた世界シリーズの書籍を著し、天地創造、人の創造、ノアの洪水が聖書通りに起こったのではなく、象徴的な意味で解釈すべきだと主張しています。

創世記１章は天地創造の歴史の記録ではなく、すでに存在していた被造物に創造主の神殿における機能を付与したのだと解釈しました。[1]

アダムとエバも人類の最初の祖先ではなく、既に存在していた人類を代表する二人だと主張します。創世記２章のエバの創造も史実ではなく、創造主はアダムを半分に切ってその半分からエバを創造したという意味だと結論づけました。[1] 実際にそんなことをすれば、死んでしまうので、象徴的に理解すべきだというのです。

さらにノアの洪水に関しても聖書に記されているような全世界を覆う洪水が起こったはずがなく、実際に起こったのはメソポタミア地域を襲った局地的洪水だと考えました。そしてノアの洪水は史実として記されたのではなく、その洪水に神学的に重要な意味を付与したものだと述べています。[1]

このように進化論を信じたウォルトンは、教父オリゲネスのように多くの聖書のことばを象徴的に解釈するようになりました。それによって進化論の歴史と聖書のことばに矛盾はないと信じたいのです。

聖書を言葉通りに受け止めようとする人にとって、ウォルトンの主張は何を言いたいのかよく理解できなくなります。それは聖書のことばと矛盾するからです。

しかし進化論を信じたい信仰者にとっては、光明となり、進化論を信じつつ聖書を信じられると安心できるのです。

私は、『ジョン・ウォルトン博士が、進化論を捨てて、創世記をそのまま信じるようになったなら』と祈らされるのです。そうすれば、聖書を無理やり象徴的に解釈する必要がなく、聖書の歴史をそのまま証しすることができます。私の願いは、進化論を信じるクリスチャンが進化論と決別し、聖書をそのまま信じられるようになることです。

ですから、あなたがたは、すべての悪意、すべてのごまかし・・・を捨てて、生まれたばかりの乳飲み子のように、純粋な、みことばの乳を慕い求めなさい。それによって成長し、救いを得るためです。ペテロの手紙第一 2:1-2 節

この聖書のことばは、信仰の成長と救いを得るためには、聖書と相入れないあらゆる考えや世の教え、それらと聖書を混合させた教えを捨てて、純粋な聖書のことばを慕い求めることが、どれだけ重要なのかを教えています。

もしあなたが、何かについて事実を告げたとき、その人が「他の人のことばと矛盾しない部分は、あなたのことばを信じるよ。」と言われたら、それは良いことでしょうか。同様に、「私は進化論を信じるから、それと矛盾しない聖書の言葉だけ信じるよ。」と言われたら、創造主はそれを良しとされるでしょうか。

世の教えとの折衷案を模索するのではなく、純粋な聖書のことばを信じることこそ、主に喜んでいただけるのではないでしょうか。創世記 1-11 章の歴史記録も、残りの聖書箇所も真実が記されていると信じようではありませんか。

	出来事	日付	聖書箇所	日数	累積日数
1	大洪水の預言：120年前	480/	6:3	-120 年	
2	大洪水の預言：7日前	600/02/10	7:4,10	-7 日	
3	乗船完了：大洪水始まる	600/02/17	7:11,13,14	0 日	0 日
4	40日の大雨が止む	600/03/27	7:12,17	40 日	40 日
5	箱船アララテの山地にとどまる	600/07/17	7:24,8:3,4	110 日	150 日
6	山々の頂が現れる	600/10/01	8:5	74 日	224 日
7	烏を放つ：地が乾くまで出入り	600/11/10	8:6,7	40 日	264 日
8	鳩を放つ：戻る	600/11/18	8:8	7 日	271 日
9	鳩を放つ：オリーブの葉	600/11/25	8:10,11	7 日	278 日
10	鳩を放つ：戻らず	600/12/02	8:12	7 日	285 日
11	覆いを取り除く・地が乾く	601/01/01	8:13	29 日	314 日
12	地がすっかり乾く・下船	601/02/27	8:14-19	56 日	370 日

表１　ノアの洪水の経緯

差し迫る大洪水

創世記 6-9 章にかけて、ノアの洪水とその前後の経緯（表１）が記されています。聖書に基づいて、ノアたちの大洪水に対する備えを考えましょう。特に洪水の預言と、すべての動物が乗るスペースは十分だったのかを検討します。

1. 大洪水の預言 (1)

主は、「わたしの霊は、永久には人のうちにとどまらないであろう。それは人が肉にすぎないからだ。それで人の齢は、百二十年にしよう。」創世記 6:3

ここで「齢」と訳されたことばは、ヘブル語の「ヨム（日々の意）」です。この箇所は人の寿命を述べているのではなく、この預言がなされてから洪水が起こるまでの日々を、百二十年とするという意味だと理解すべきでしょう。

これを寿命と理解しようとするなら、「主の霊が永久に人のうちにとどまらない」ことと寿命がどうつながるのかわからなくなってしまいます。

ユダヤ人の伝承によると、ノアの祖父メトシェラが亡くなったのは、大洪水の七日前です。[2] これが正しければ、ノアとその家族を除いて主の霊が最後までとどまっていた人は、メトシェラだったでしょう。ノアは、メトシェラの弔問に来た人すべてに箱船に乗るよう勧めたでしょうが、誰も耳を傾けなかったのです。

2. 大洪水の預言 (2)

主は洪水の七日前にも、七日後に洪水を起こすと預言しました。それからの七日間で、ノアたちはすべての準備を整えて乗船しなければなりませんでした。きよくない動物たちは、創造主が一番(つがい)ずつ、きよい動物たちは七匹(つがい)ずつ連れてこられました（七番(つがい)という訳もある）。

また、７章 14 節で動物たちが種類ごとに連れてこられたことが書かれています。この種類とは、おおよそ生物分類学上の科（界・門・綱・目・科・属・種）に相当すると考えられます。

アーク・エンカウンター・プロジェクトチームの算定に基づいてどれくらいの動物が乗船したかを表したのが表２です。きよい動物が七匹か七番(つがい)かは、ヘブル語学者の間でも意見が割れているため、両方の場合を掲載しています。私自身は七匹ではないかと考えています。その理由は洪水後にノアがきよい動物から一匹ずつをささげ、残りの三番(つがい)から繁殖させたと推測するからです。[3]

きよい動物が七番(つがい)だった場合でも乗船したのは 6,744 匹となります。また、乗船した動物全体の容量は、多くの人が思い描くよりも非常に少なかったでしょう。その理由の第一は、ほとんどの動物が中型犬（体高 35cm 程度）より小さいからです。

第二は、乗船する動物は成体ではなく幼体でなければなりませ

表２　箱船に乗った動物の種類数と総数

絶滅した動物の種類は、化石の存在から知ることができる。現在も生息している動物と並べることで、箱船に乗ったであろう動物の半数以上の種類が洪水後に絶滅していることがわかる。

（アーク・エンカウンター・プロジェクトチームによる調査と算定に基づく[3]）

	分類	種類数	匹数/種類と内訳（きよい動物７番ずつの場合）	総数（匹）	匹数/種類と内訳（きよい動物７匹ずつの場合）	総数（匹）
絶滅動物	両生類	54	2	108	2	108
	爬虫類	219	飛翔性：24 x 14 = 336 非飛翔性：195 x 2 = 390	726	飛翔性：24 x 7 = 168 非飛翔性：195 x 2 = 390	508
	哺乳類を除く単弓類	78	2	156	2	156
	哺乳類	332	きよい/飛翔性：15 x 14 = 210 きよくない：317 x 2 = 634	844	きよい/飛翔性：15 x 7 = 105 きよくない：317 x 2 = 634	739
	鳥類	89	飛翔性：69 x 14 = 966 非飛翔性：20 x 2 = 40	1,006	飛翔性：69 x 7 = 488 非飛翔性：20 x 2 = 40	528
現生動物	両生類	194	2	388	2	388
	爬虫類	101	2	202	2	202
	哺乳類	136	きよい/飛翔性：31 x 14 = 434 きよくない：105 x 2 = 210	644	きよい/飛翔性：31 x 7 = 217 きよくない：105 x 2 = 210	427
	鳥類	195	飛翔性：190 x 14 = 2,660 非飛翔性：5 x 2 = 10	2,670	飛翔性：190 x 7 = 1,330 非飛翔性：5 x 2 = 10	1,340
	総数	**1,398**		**6,744**		**4,396**

セミトレーラーとコンテナ Wiki.

ん。それは一年後に箱船から出る頃に繁殖に適した状態であることが必要だからです。

アーク・エンカウンター・プロジェクトチームによると、最も小さい動物たちの体重は、1g～10g です（ハチドリ科など）。また、最も動物数が多い重さの範囲は 10g～100g です（トカゲ科・ネズミ科・リス科・モグラ科・多くの鳥類など）。そして体重 10kg を超える大きな動物は、動物全体の 15% 程度だったと考えられます（カバ科・ゾウ科・ティラノサウルス科など）。

またエサやりや掃除などをできる仕組みが箱船に組み込まれていれば、ノアの家族にとってそれらは不可能な作業とはならなかったでしょう。米国ケンタッキー州のアーク・エンカウンター・テーマパークでは、そのような仕組みも考慮して箱船を再現しています。再現された箱船の容積は 53,200 ㎥で、これは日本でも一般貨物の運搬によく使われるセミトレーラー（写真参照）450 台分の貨物量に相当します。[3] 6,744 匹を 450 台に分乗させると 1 台あたり 15 匹となります。さらに小さい動物の檻はいくつも重ねることができますから、箱船にはこれらすべてが乗っても非常に余裕があったでしょう。

よく描かれるノアの箱船のイラストを見ると、小さくて船底の丸い船に動物がひしめき合って乗っていて、ノアとその家族もおしくらまんじゅうをしながら乗っているような絵が多いように思われます。

しかし実際の箱船の形と容積から、まだまだ大勢の人が乗れる余裕のある巨大な船だったことが解るのです。

箱船は、当時の技術力を生かし、洪水を乗り切ることを想定した十分な設備を整えた船だったことでしょう。この建造はノアとその家族だけでなく、洪水の一週間前に亡くなった祖父メトシェラ、数年前に亡くなった父レメク、そして彼らに雇われた船大工たちによる一大プロジェクトだったのです。

次回は、今回の続きでノアの洪水が始まってからの経緯を考えます。また、11 月開催のアーク・エンカウンター・テーマパークツアーに関心のある方は同封のチラシをご覧ください。

引用文献・参考文献

1. Cox, G. "The Lost World of Walton" March 14, 2019. <https://creation.com/lost-world-walton>
2. "Passing of Methuselah" Chabat.org より <https://www.chabad.org/calendar/view/day_cdo/aid/210834/jewish/Passing-of-Methuselah.htm>
3. Belknap, M., "How Could All the Animals Fit on the Ark?" Answers in Depth, April 2. 2019 <https://answersingenesis.org/noahs-ark/how-could-all-animals-fit-ark/>

お知らせ

「創造主と共に生きて」
好評発売中
名誉会長
宇佐神 正海自伝
全 35 ページ
定価 250 円＋税

献金のお願い

国内外に創造主のみわざを伝えるため、ご支援をお願いします。
ジェネシスジャパン
ゆうびん振替　00350-7-3364
ゆうちょ銀行　10650-52405611

講義・イベント予定

■秋の創造セミナー
日程：2023/11/2～4
会場：ホテルグリーンプラザ上越
新潟県南魚沼市

■創世記の世界を巡るツアー
（創造博物館・ノアの箱船テーマパーク・他）
日程：2023/11/18-23
特別ガイド / ダニー・フォルクナー博士
講師・通訳 / 宇佐神実

お問い合わせは
ジェネシスジャパンまで

講座の目的と概要

＊創造主のみわざのすばらしさに感動し、その感動を伝える働き人が起こされる。
＊創造論の講演に加え、創造論の背景となる知識や考え方を少人数で学ぶ。
＊創造を伝えるために役立つ資料の提供。
＊修了証授与（全日程参加者）
＊創造論を用いての個人伝道、CS や教会でのメッセージ、講演ができるよう協力。

（参加費等はお問い合わせください）

詳細はジェネシスジャパンまで

ジェネシスジャパン　〒311-3116 茨城県東茨城郡茨城町長岡 3652-306-3　tel 029-292-9621 fax 03-6862-8340